

高校・特別支援学校

スクールボランティアサミット

認定NPO法人さわやか青少年センターと東京都奉仕・ボランティア教育研究会が8日、都立文京高校で「スクールボランティアサミット2017」奉仕・ボランティア体験学習で新学習指導要領を先取りする「」を開催した。小・中・高校、特別支援学校が取り組む実践報告やワークショップを通じて、生徒に「生きる力」の根源である「人間力(自助力・共助力)」を育む奉仕・ボランティア体験学習の在り方について協議した。

学校活動報告では、都教委が平成28年度から始めた「都立特別支援学校における社会貢献活動モデル事業」の指定校である都立立川ろう学校と都立中野特別支援学校が自校の取り組みを発表した。

都立立川ろう学校

立川ろう学校の高等部では、総合的な学習の時間に学年ごとのテーマと目標を決めている。そのうち1年生は、「奉仕」をテーマに相手の思いや心の育成や相手の立場に立って考える思考力の向上、社会の一員としての意識を持つことを目的として活動している。

高齢者と交流、地域課題の解決策を提案

稚部との交流は小さい子に不安を感じていたが、どもでも楽しめる「魚釣 高齢者の方の笑顔を見てりゲーム」を、高齢者と安心した」と生徒たちの交流では手話歌やダンス、パントマイムによるから口ずさむ高齢者もおコント、風船バトンリレり、生徒をまるで自分の一実施。聞こえないと孫のように感じて交流をいうことで、最初は交流 喜んでくれたという。

「人間力」育む体験学習を協議



立川ろう学校の生徒に合せて、参加者と一緒に手話を体験



民生委員が提案する地域の課題解決のためのプログラムを協議し合う参加者たち

また、学区域が決められた地域型の知的障害特別支援学校である中野特別支援学校も、学校から徒歩圏内にある高齢者施設との交流を実施。生徒が普段の学校生活で取り組んでいる合唱や高齢者施設でやっているというテーブルボウリングなどを一緒に楽しみ、テーブルボウリングでは生徒が裏方・サポート役としての一生懸命ゲーム運営を支える姿も見られた。

山梨県立塩山高校

一方、甲州市唯一の高校である山梨県立塩山高校の古守やす子教諭は、総合的な学習の時間、各教科、特別活動など教育活動全体で取り組む自校のキャリア教育を紹介した。地域と連携した同校のキャリア教育が目指す

一人が「人のために何ができるか」「次に何をすればよいか」を考えて行動する学びの場ともなる。そのために、繰り返し取り組むことが大事」と述べた。

上には高齢者の方々は、基礎学力の定着、生徒の訪問を喜んでくれた。安全面に十分配慮した上で、まずはやってみる」とと濱島隆幸主幹教諭。学校生活の中では見られない生徒の様子が見られて生徒理解が深まった他、「生徒も教職員や保護者以外の人から「ありがとう」を言われたり、褒められたりする経験を積み重ねることによって自信を高める。また、一

古守教諭は、全教員が生徒の課題と目指すところについて共通認識を持ち、キャリア教育を推進することができたことを成果として挙げ、生徒の実態を踏まえ細やかな振り返りと改善をしながら根気強く続けることが必要だと振り返った。